

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		二松学舎大学		設置者名		学校法人 二松学舎			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
文学部	国文学科	260人	中一種免(国語)	昭和29年度	284人	97人	88人	36人	
			中一種免(中国語)	昭和29年度			0人		
			高一種免(国語)	昭和29年度			97人		
			高一種免(書道)	昭和29年度			4人		
			高一種免(中国語)	昭和29年度			0人		
	中国文学科	140人	中一種免(国語)	昭和29年度	128人	31人	29人	11人	
			中一種免(中国語)	昭和29年度			2人		
			高一種免(国語)	昭和29年度			30人		
			高一種免(書道)	昭和29年度			17人		
			高一種免(中国語)	昭和29年度			3人		
国際政治経済学部	国際政治経済学科	200人	中一種免(社会)	平成10年度	210人	10人	9人	5人	
			高一種免(公民)	平成10年度			8人		
入学定員合計		600人	合計		622人	138人	287人	52人	

大学名		二松学舎大学(大学院)		設置者名		学校法人 二松学舎			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)				
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
文学研究科	国文学専攻	16人	中専免(国語)	平成2年度	5人	2人	2人	0人	
			高専免(国語)	昭和42年度			2人		
			高専免(書道)	昭和42年度			0人		
	中国学専攻	16人	中専免(国語)	平成2年度	2人	1人	1人	0人	
			中専免(中国語)	平成2年度			0人		
			高専免(国語)	昭和42年度			1人		
			高専免(書道)	昭和42年度			0人		
			高専免(中国語)	昭和42年度		0人			
国際政治経済学研究科	国際政治経済学専攻	10人	中専免(社会)	平成13年度	11人	0人	0人	0人	
			高専免(公民)	平成13年度			0人		
入学定員合計		42人	合計		18人	3人	6人	0人	

備考

・「学部・学科等の名称等」欄は、平成23年4月1日現在の名称・定員である。  
 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。



# 実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成23年6月14日（火）

実地視察大学：二松学舎大学

実地視察委員：渋谷治美委員、高倉翔委員、田村哲夫委員

## ■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

### <状況>

- ・大学では2学部3学科、大学院では2学科3専攻で教員養成を行っている。

### <講評>

- ・教育内容についてはほぼ良好に実施されていると考えるが、教育課程及び教員組織等について一部基準が満たされていないため、早急に改善、経過報告すること。
- ・今後も平成18年答申に基づく教育職員免許法施行規則改正を踏まえ、教員養成の水準の維持・向上に努めること。

## ■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

### <状況>

- ・豊かな人間性と教育への献身を備えるとともに、専門学術の確かな力量および幅広い教養を身につけた教員の養成を理念としている。

### <講評>

- ・教員養成に対する理念・構想が示されているが、それを明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織を構築するとともに、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように努めること。

## ■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

### <講評>

(大学・大学院)

- ・複数の課程において、科目区分の半数を超えて他学科等開設科目が当てられているため、基準を満たすよう修正すること。
- ・基準上共通開設が認められていない科目で、共通開設が行われているため、早急カリキュラムを見直し改善すること。
- ・シラバスを作成する前に、教職課程委員会において、教職に関する各科目において含むべき事項等が担当教員間でばらつきがないよう確認するとともに、各担当教員の共通認識を図ること。

(大学)

- ・ 教科に関する科目の授業は魅力的で、評価できる。
- ・ 基準を超えてみなし専任が置かれているため、開設学科に必要な専任数を確保し、教員の配置を行うこと。
- ・ 同一名称の科目については、教員によって大幅に内容が異なることがないよう、教員間で調整して同じ内容に近づけること。
- ・ 教科に関する科目について、どの科目を取得すると一般的包括的内容を満たすのかわからないので改善すること。
- ・ 教職に関する科目について、教育職員免許法施行規則上含むことが必要とされる事項を確認できるよう、授業計画を再考の上、当該事項を含んでいることを確認出来るようシラバスに明記すること。
- ・ 出席のみをもってプラスの評価を与えることが望ましくないため、評価方法を見直すこと。

## ■ 教育実習の取組状況

<状況>

- ・ 実習は、ほとんどを母校で行い、一部東京都内公立学校、附属学校で行っている。
- ・ 大学担当者による実習校の訪問を行い、実習生の指導にあたっている。

<講評>

- ・ 教育実習の実施にあたっては、課程認定大学は、教育実習の全般にわたり、学校や教育委員会と連携しながら、責任を持って指導に当たることが求められる。
- ・ 大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、可能な限り大学が所在する近隣において実習先を確保することが望ましいが、学生が出身地の学校への就職を希望する等により、遠隔地における教育実習を行う場合においても、大学が、実習先の学校と連携し教育実習に関わる体制を構築するとともに、公正な評価となるように努めること。

## ■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

- ・ 支援ボランティアやインターンシップ等、地域と学校との連携を図り学校現場へ学生を積極的に派遣している。

## ■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

- ・ 毎年4月に各年次生を対象としたガイダンスを実施している。
- ・ 平成22年度より教職支援センターを新たに設置し、常時教職課程の教員を配置している。

<講評>

- ・教職支援センターの設置が最近であることから、今後結果を出すことを期待したい。
- ・教員の就職状況について、教員免許状取得者はここ数年減少しているものの、教職に就く者の割合が高まっていること及び教員就職者数が増えていることは評価できる。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

- ・教職課程に関する事項全般を所掌する教職課程運営委員会を設置している。

<講評>

- ・教職課程担当教員の指導、努力の成果は伺えるが、学長のもと全ての教員が協力するような組織体制の構築が必要であり、現在の教職課程運営委員会のあり方について見直しが必要である。
- ・認定課程の状況について、教職課程認定基準等に照らしつつ、学内での自己点検、チェック体制を強化することを期待する。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

- ・教職関係の図書、学術雑誌等の資料及び各種の教育機器等の施設・設備が十分に備えられていて、評価できる。

■ その他

<講評>

- ・学部との連携をより一層すすめ、今後研究する場としてだけでなく、教育の場としての大学院での積極的な教育を期待したい。

